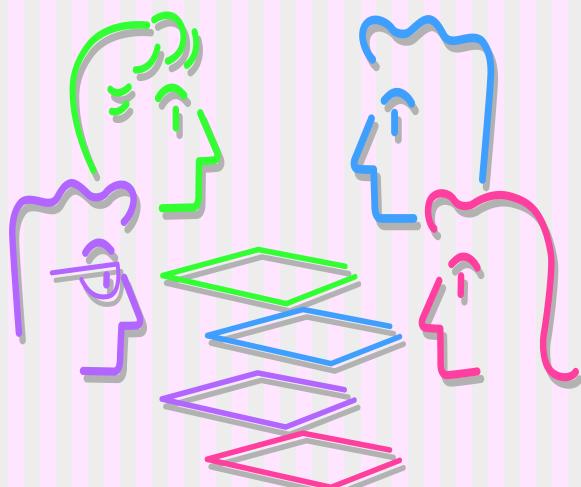


学習者間評価で 学生が「上手い」と感じる音読の要素

—習得の困難さと効果



神戸学院大学
中西のりこ

nakanisi@ba.kobegakuin.ac.jp

1. 学習者間評価 (Aoun 2008)

(Advantages)

- Learners' responsibility
- Metacognitive development
- Autonomy
- Deep learning

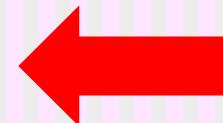
(Ineffectiveness)

- Students' marks and performance
- Poor quality feedback
- Potential bias

1. 学習者間評価

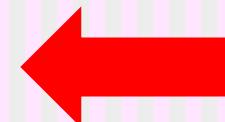
(Advantages)

- Formative (形成的)
- Qualitative (質的)



(Ineffectiveness)

- Summative (総括的)
- Quantitative (量的)



- * 期間中に評価点はどのように変化するか？
- * 高い評価点を得るにはどうすればよいか？

2. 音読の要素 (Lucas1995)

(Delivery)

- Volume -----> 声の大きさ
- Pitch
- Rate -----> 速さ
- Pauses - - - - ->
- Vocal Variety - - - - -> 区切り
- Pronunciation - - - - ->
- Articulation - - - - -> 発音
- Dialect

2. 音読の要素

①発音:

個々の音を英語らしい発音で読めているか

②区切り:

適切な場所で間を取りながら読めているか

③声の大きさ:

適切な大きさの声で読めているか

④速さ:

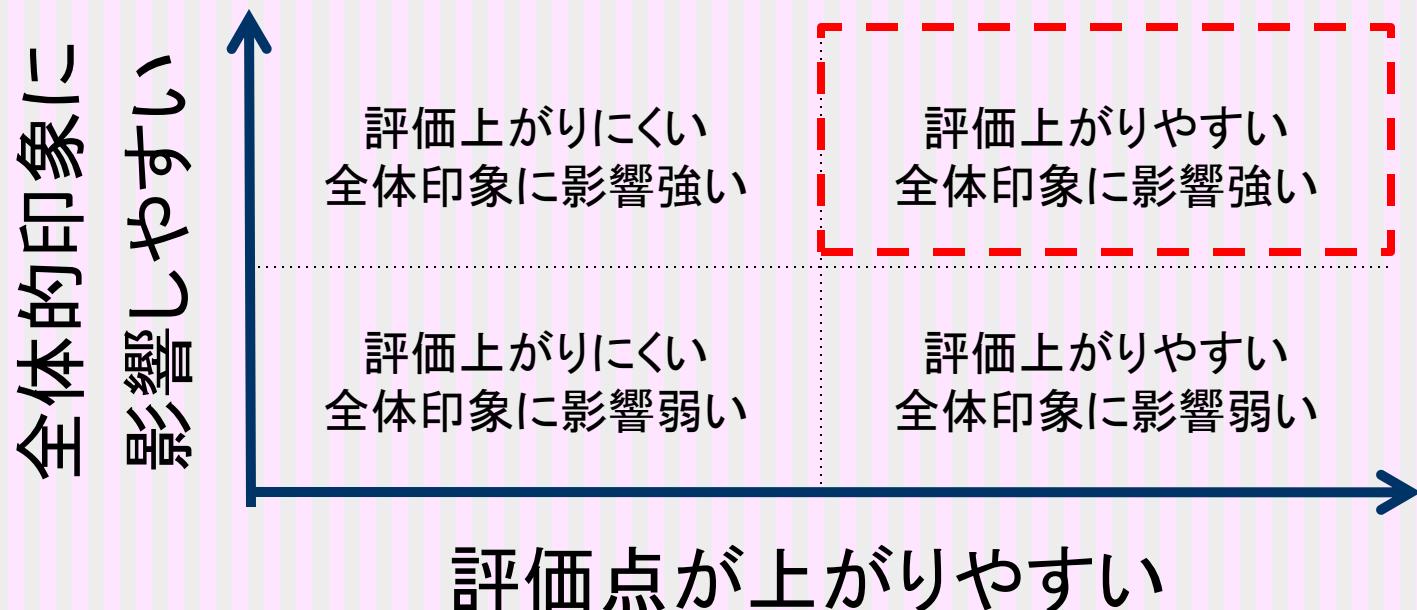
適切な速さで読めているか

⑤全体的な印象:

「上手だな」「お手本にしたい」

3. 研究の目的

比較的早い時期に評価点が上がる要素
全体的印象に比較的強い影響を及ぼす要素
→学習の成果を実感しやすい要素



4.活動内容 (参加者)

神戸市内2大学、3科目、2009年4月～7月

専攻	学年	人数	回数	教材
非英語	2, 3年	22人	11回	会話
非英語	2, 3年	22人	4回	絵本
英語	1年	38人	6回	ニュース

4.活動内容 (手順)

- 1. 音読練習(クラス全体または個人で)
- 2. 録音(Windowsサウンドレコーダー)
- 3. 音声ファイル提出(CALLシステム)
- 4. 全員の音声ファイル受信(〃)
- 5. 自己／学習者間評価(Excelファイル)
- 6. 評価シート提出(CALLシステム)
~~講師、授業後~~
- 7. 評価シートを読み手ごとにまとめ
- 8. 次週に返却

5. 教材 (会話文)

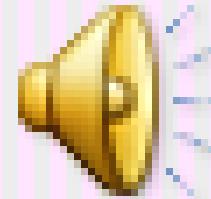
2. Tell me a bit about you
3. Have a pleasant flight!
4. First steps in a foreign country
5. Staying at a hotel
6. Staying at a hotel
7. Let's go shopping!
8. Sightseeing
9. At a fast-food place
10. Dining at a restaurant
11. Catching a taxi



“Fly to the US!”
松柏社

5.教材 (英語絵本)

- Five Little Monkeys
- Curious George
- Frederick
- The Mitten
- Harry the Dirty Dog
- Little Gorilla
- Mr. Gumpy's Outing
- Someday
- The Gigantic Turnip
- The Little House



図書館

約100冊から

5.教材 (ニュース)

1. Water, Water, Anywhere
2. La Nina Phenomenon
3. Cybercrime: China Hackers
4. Tata Motors Buys Jaguar and Land Rover
5. Tibet and the Olympic Torch Relay
6. MySpace for Cars



“English For the
Global Age with
CNN vol.10”
Asahi Press

5.教材 (評価シート例)

評価者	読み	①発音	②区切	③声	④速さ	⑤全体	コメント
choc	apple	3	4	3	4	4	声の大きさと発音に気を
choc	BABE	3	3	3	3	3	一つ一つの単語をはっきり
choc	balloo	4	4	4	4	4	声の大きさと区切りがグッド
choc	banan	4	4	4	4	4	発音と速さがグッド！もう
choc	bean	3	3	3	4	3	もう少し抑揚付けるといい
choc	blackd	5	4	5	4	4	発音と声の大きさグッド！
choc	cherry	4	4	4	4	4	発音がうまい！もう少し大
choc	chibig	3	3	5	3	3	声の大きさグッド！区切り
choc	choco	3	2	3	3	3	発音と息継ぎと抑揚に気を
choc	deer	5	4	4	5	4	発音と速さグッド！自然な
choc	dot	3	3	4	4	3	声の大きさグッド！発音と
choc	grape	5	5	4	5	5	メッチャ上手！発音と速さ
choc	KAKA	4	5	4	4	4	発音と区切りがグッド！も

6. 分析の方法（評価点の変化）

①発音 ②区切り ③声 ④速さ ⑤全体印象のうち、
評価点が特に上がった要素、回があるか？

回を重ねるごとに上達への期待が高まり
評価基準が厳しくなった可能性があるため、
「絵本」クラス最終日に「Blind」評価を実施。

⇒一元配置 分散分析
⇒Tukey HSD

6. 分析の方法 (要素ー全体印象)

- ①発音 ②区切り ③声 ④速さ のうち、
- ⑤全体印象に強い影響を及ぼす要素はあるか？

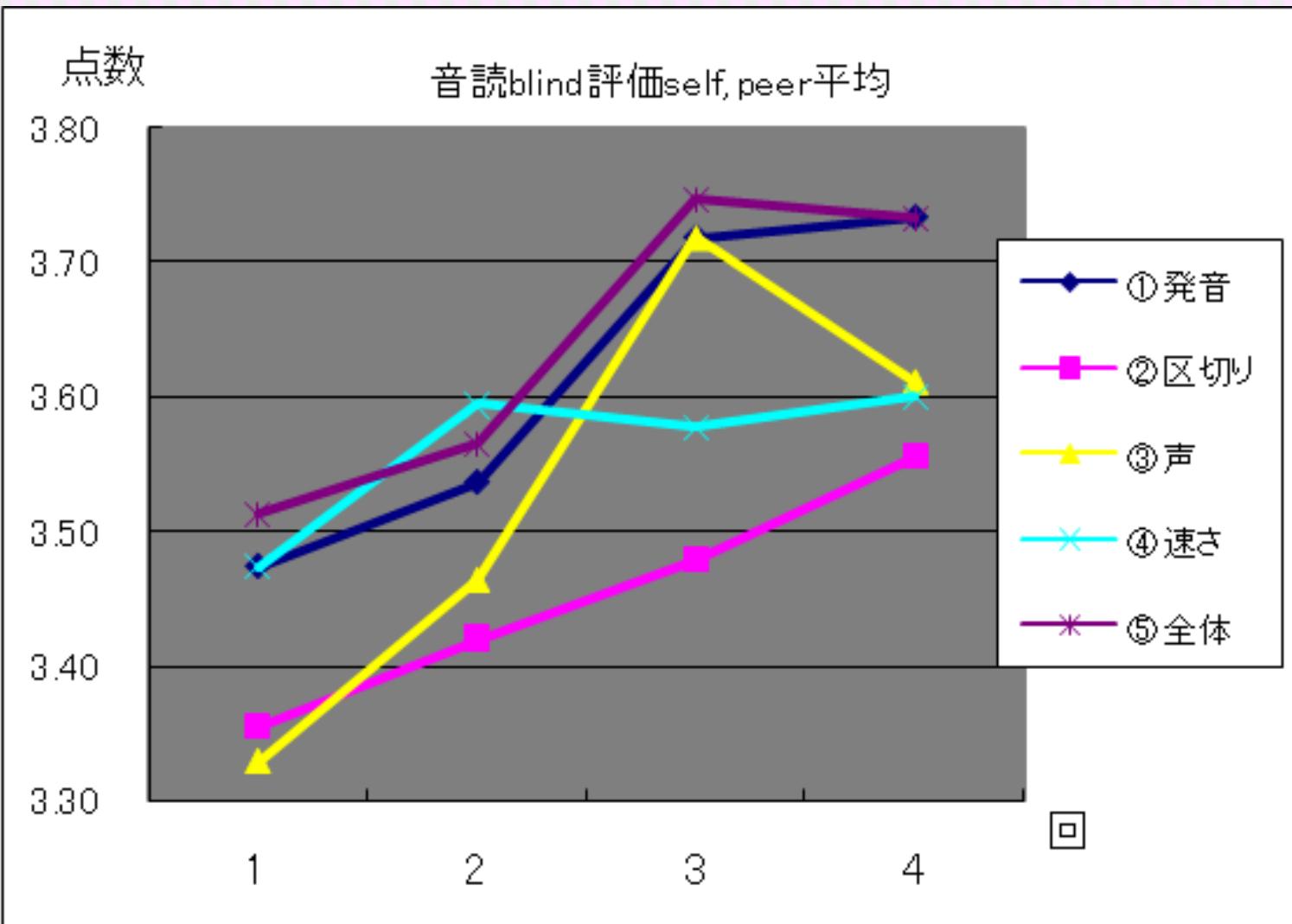
①～④に有意相関→多重共線性の可能性があるため、VIF値を求めた結果、いずれについても1以上だが2未満だった。

⇒ ①～④を説明変数、

⑤を被説明変数とし、

強制投入法による重回帰分析

7.結果 (評価点の変化①)



7.結果 (評価点の変化②)

一元配置 分散分析 ($N=298$)

①②④⑤ *n.s.*

③声 $F(3,294)=3.55 (p<.05)$

③についてのみ5%水準で有意差。

Tukey HSD 検定の結果、

1回目と3回目の間に有意差。

→3ヶ月半(4回)の学習者間評価活動で
有意に上昇するわけではない。

7. 結果 (要素－全体印象)

重回帰分析 ($N=7734$)

	B	β	t
①発音	.33	.36	48.1 ($p<.01$)
②区切り	.24	.26	32.7 ($p<.01$)
③声	.18	.22	32.5 ($p<.01$)
④速さ	.23	.25	31.3 ($p<.01$)

①～④全てが1%水準で有意に⑤を説明

⇒どの要素の評価も全体的印象に影響がある。
⇒「発音」の影響が強く、「声」の影響弱い。

8. 考察 (評価点の変化)

講師からの音読に関する指導なしに、
3ヶ月半(4回)の学習者間評価だけで、
評価点が統計的に上がるわけではない。

- ⇒ 数か月の活動で結果が出るほど簡単なものではない？
- ⇒ “Ineffectiveness in students' marks and performance”?
- ⇒ “Poor quality feedback”?
- ⇒ 「評価点」を用いて「学びのプロセス」を測ろうとすることの限界？

8. 考察 (要素ー全体印象)

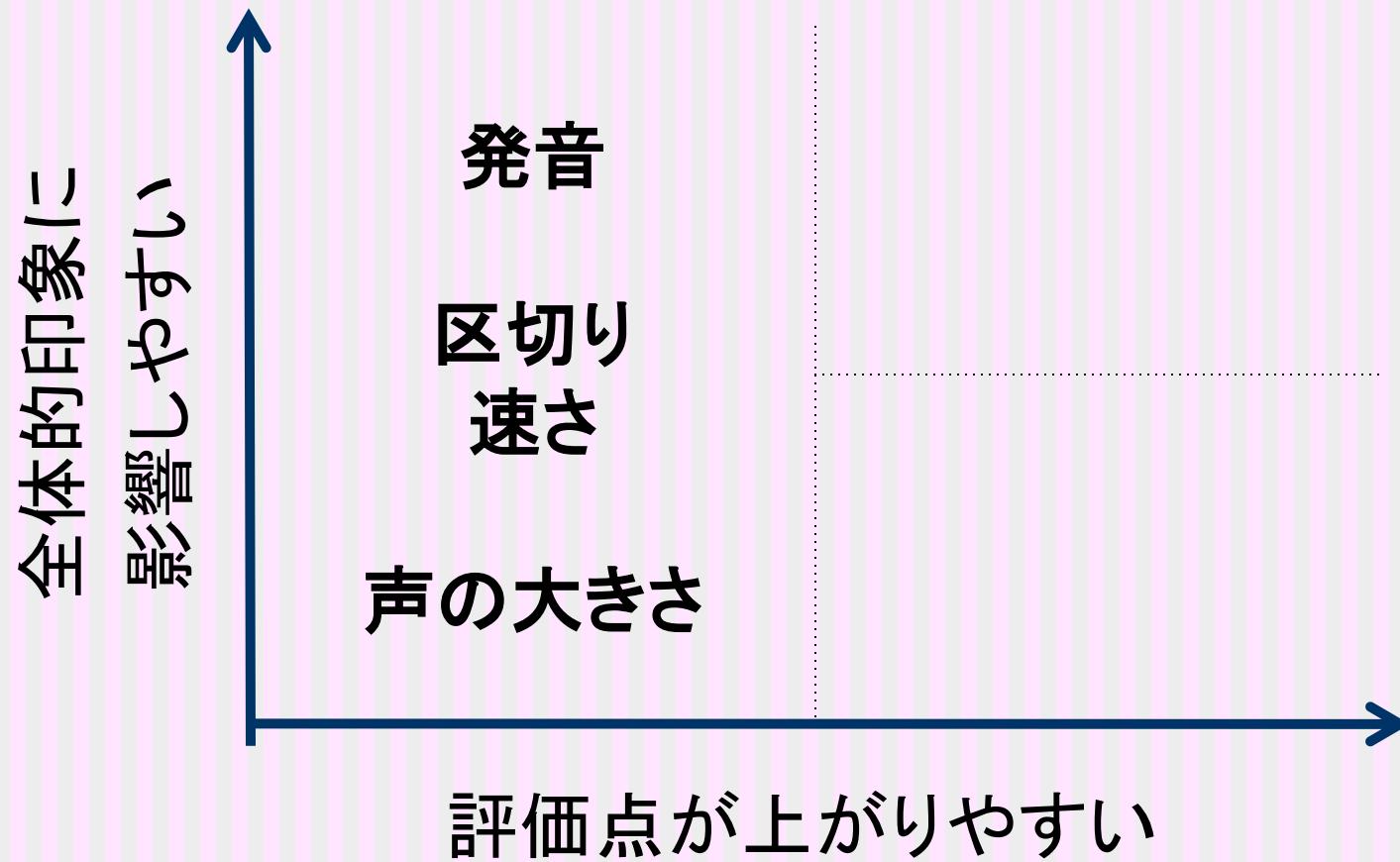
- ・ 発音、区切り、声、速さすべての要素が全体的な印象に影響を及ぼしている。
- ・ 「発音」の上手さ→全体印象に比較的強い影響
- ・ 「声の大きさ」→全体印象に比較的弱い影響

⇒「ここさえがんばれば」という近道はない。

⇒学習者は「英語らしい発音」をお手本にしたい。

⇒元気がよければよしというわけではない。

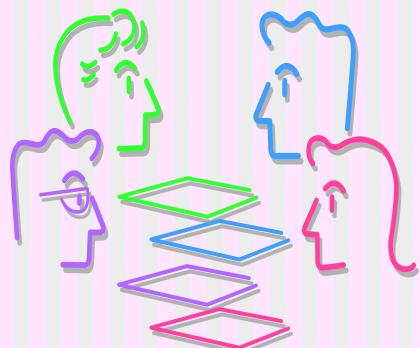
9.まとめ (習得の困難さと効果)



学習者間評価で 学生が「上手い」と感じる音読の要素

—習得の困難さと効果

ありがとうございました。



神戸学院大学

中西のりこ

nakanisi@ba.kobegakuin.ac.jp